長崎県中学生・高校生防災会議

〔主催〕国立諫早青少年自然の家
（企画・運営 ： 佐賀・長崎地域ぐるみで「体験の風をおこそう運動」推進実行委員会）
〔期日〕令和5年 12 月9日(土)10:30～15:30
〔活動場所〕国立諫早青少年自然の家
〔参加者〕長崎県内の中学校、高等学校に在学する生徒 36名 教員 ３名
〔講師〕長崎大学原爆後障害医療研究所 教授／東日本大震災・原子力災害伝承館 館長 髙村 昇 氏
兵庫県立大学 客員教授／防災教育学会 会長 諏訪 清二 氏
〔担当職員〕寺中 拓也、中里 文彦、髙山 雄也

1)趣旨

地震や火山噴火、水害など様々な災害が頻発している日本において、防災・減災について学び、備えることが当たり前になりつつある今日、これからの防災や減災の担い手の中学生・高校生を対象に、今後の防災や減災について考える機会を設け、長崎県内の青少年の防災意識と社会参画意識のさらなる向上を目指します。

2)SDGsで目指す姿

	目標4 質の高い教育をみんなに 講師の講義やワークショップによる生徒同士の意見交換により、中高生の防災・減災意識の向上を図る。 目標 11 住み続けられるまちづくりを 被災時の様子を知ったり、事前の備えを学んだりすることで、災害に強いまちとなるためにどうすればよいかを考える。

3)目標

次年度当施設で実施する「全国中学生・高校生防災会議」の足掛かりとして、以下のゴールを目指す。

- 被災時の様子、社会の状況を知り、いつか自分自身も被災者になるかもしれないという意識を持つ。
- 被災時や被災後に、中高生はどのような役割があるのかを理解し、自分自身がどのような貢献ができるかということを考え、見通しを持つ。
- 防災、減災について、これから何を学び何について理解を深めていきたいかを整理し、学ぼうという意欲が高まる。

4）プログラム

12 月9日（土）
10:30　開会式
講義1「東日本大震災における福島の今」　【写真①、②】
12:00　昼食（持参）
13:00　講義1ふりかえり
13:30　講義2「災害と向き合う中高生たち」　【写真③、④】
15:10　協議「私たちにできること」
15:30　閉会式

5）事業展開

①、②　講義1「東日本大震災における福島の今」

髙村講師より、放射線被ばくが人間の健康にどのような影響を与えるかについて、実験を交えながら講義をいただきました。

簡易装置を用い、放射性物質は普段食べている食品にも含まれていることを知ったり、放射性物質の影響を受ける甲状腺を実際に観察したりしました。

参加した生徒たちは、放射線の被ばく線量によって健康への影響が変わることを学び、正しい情報を基に「正しく怖がる」ことの重要性を理解しました。

③、④　講義2「災害と向き合う中高生たち」

諏訪講師より、地震発生のメカニズムや被災時の避難所の様子、必要な備えなどについて講義をいただきました。生徒たちは、「家で何を備蓄する？」などの質問に対し、自分自身で考えた意見を他校の生徒とディスカッションする中で、より考えを深めている様子でした。

講義の中で、諏訪講師から「知識があっても行動につながっていないと意味がない。」という言葉をいただきました。参加者が今回学んだ備えや行動について、何か一つでも考えて実践に移すことを期待しています。

6）評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
89%	11%	0%	0%

② 参加者の声

- 普段では知ることが出来ない知識を知ることや他の高校の人と触れ合うことができ、とても貴重な時間でした。
- 放射線についてあまり知識がなかったので不安でしたが、分かりやすく説明していただいて放射線について正しい知識をつけることが出来た。
- 放射線という言葉はニュースでたくさん聞くけど、正しい知識はなかったので知識が増え、今後の生活に活かしていけると思った。これをみんなに広めていきたい。
- 東日本大震災は、教科書などで見るだけで詳しく調べたことは無かったので、福島原発について知ることができてよかったです。放射線についてもっと調べてみようと思いました。また、情報に流されず正しい知識と正しい判断を出せる力を身につけたいと思いました。
- ワークショップが楽しかった。人の意見と自分の意見を混ぜるのも、頷いてもらうのも、頷くのも楽しかった。身近な内容なだけあって、より覚悟しながら話が聞けた。
- 諏訪先生の話しが面白くて、内容が次から次にスラスラ入ってきました。避難しなければならない場面になった時に焦らないでいいように、今から避難用品をまとめておこうと思いました。
- 避難所でのリアルな風景を知ることができ、他人に言われてからではなく自分の判断で避難するということを学んだ。

7）成果と課題

① 成果

- 中高生が防災・減災を学ぶ機会は限られている長崎県において、防災・減災に興味を持つ中高生が学ぶ場を提供することができた。
- 本事業は初めての開催であったが、予定を超える 30 名以上の中高生に参加いただくことができた。
- 髙村先生や諏訪先生といった、被災地支援や防災・減災教育に精通した講師に協力いただき、参加者は質の高い講義で学ぶことができた。

② 課題

- 次年度当施設で開催予定である、「全国中学生・高校生防災会議」のプレ事業として実施した経緯もあり、参加した生徒たちの次年度事業への参加を促していきたい。
- 今回は参加校が4校のみだったため、今回の取組を他の中学校、高校へ積極的に広報し、次年度事業への参加につなげたい。